

ニホンナシの幼果の果梗裂傷被害は 2月下旬の水和硫黄剤散布で軽減できる



図1 幼果の果梗裂傷(矢印)と
ニセナシサビダニ(右下)

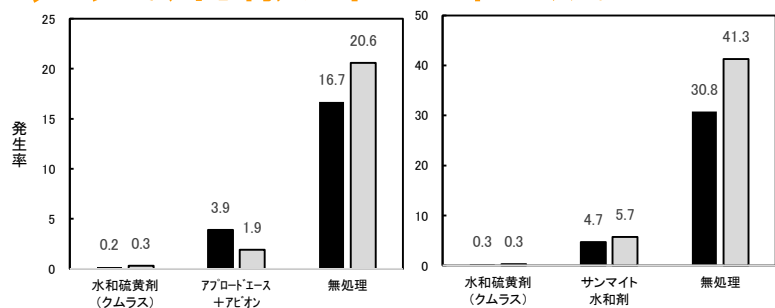


図2 ニセナシサビダニに対する越冬期防除が幼果の果梗裂傷および果そう葉の退緑斑点症状発生率に及ぼす影響(2020年、2021年)

問 研究のねらいは？

答 ニホンナシにおいてニセナシサビダニが原因と考えられる幼果の果梗裂傷が発生しており、果実肥大の阻害や果梗の折損につながっています。これまで防除効果の高い薬剤や防除時期は不明でしたが、本研究で、越冬期(2月下旬)の水和硫黄剤散布により果梗裂傷被害を軽減できることを明らかにしました。

問 研究の成果は？

- 答
- ① 2月下旬に水和硫黄剤(クムラス)300倍を散布することで、幼果の果梗裂傷および果そう葉の退緑斑点症状を軽減できます。
 - ② 越冬期にカイガラムシ類を防除する場合は、水和硫黄剤にアプロド剤とアビオンEを混用して散布することで、同時防除が可能です。

問 栽培または普及するうえで注意する点は？

- 答
- ① 本試験は、果樹研究所内の露地栽培「あきづき」で実施しました。
 - ② 越冬期にマシン油乳剤や石灰硫黄合剤を散布できない園で本技術が活用できます。
 - ③ ニセナシサビダニによる被害は、果梗および果そう葉が硬化する前に発生するため、越冬期(2月下旬)に防除するのが有効です。
 - ④ 水和硫黄剤は春期以降の散布で葉や花卉に薬害を生じるおそれがあるため、発芽前の散布になります。